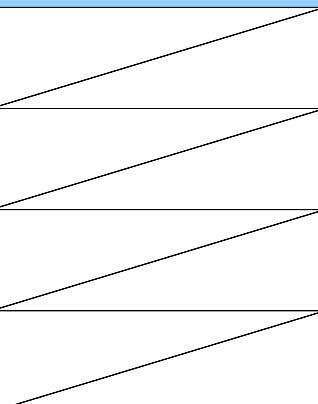
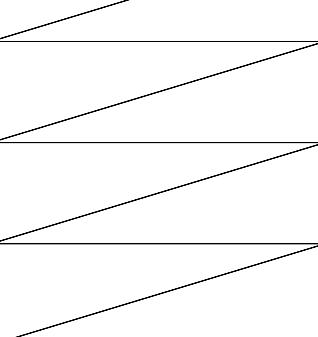
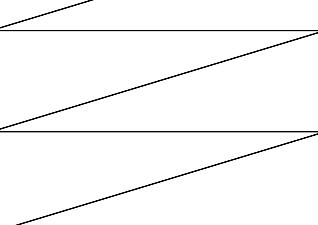
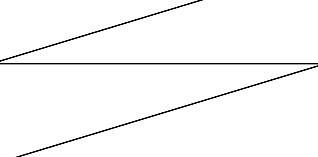


2020年度 施策マネジメントシート【2019年度実績評価】

作成: 2020年 6月 9日

施策番号 4-2-3	施策名 道路交通環境の整備	基本目標 自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり 政策名 快適な都市環境づくりの推進	
	主管課 建設都市整備課	課長名 橋本 直樹	内線 440
施策関係課 企画財政課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
道路交通、公共交通における移動の快適性、利便性の向上をすすめます。		町民	・交通アクセスを強化する ・目的地までの快適な移動、利便性の向上をすすめる				安全で快適な生活を送ることができます
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 冬期間の移動(徒歩、車、公共交通機関等)は、安全・安心と感じる町民の割合	住民意識調査	%	65.4	52.7	70.7	70.7	
② コミュニティバスの1便あたりの乗車人数	企画財政課調べ	人	10.1	9.9	10.5	10.5	
③							
④							
成果指標 設定の考え方	①冬期間の移動に対する満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、段階的に向上させ、目標値を目指すもの。(※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②公共交通機関に対する町民の満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)に基づき年0.1人向上させ、目標値を目指すもの。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費 (千円)	662,405	836,139
人工数(業務量)	6.0024	5.9935

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は前年度より向上 →除雪状況に対する効率的な除雪作業等が主な要因 成果指標②は前年度より低下 →高齢化と公共交通利便性への関心の高まりが主な要因
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠 (理由)	①除雪作業に対する理解度を高めることで目標達成は可能であるが、除雪状況(降雪時間帯・降雪量)により満足度は大きく変動 ②コミュニティバスの利用状況を分析し、課題点に対する対応策を講じ、満足度を向上させることで目標達成は可能
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町道・歩道・駐車場等除排雪事業 地域公共交通確保対策事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	●道路パトロールと維持修繕 →パトロール強化及び損傷か所の早期発見、修繕を目的とした「道路施設維持管理業務」を民間会社で組織する組合に委託し、道路利用者の安全確保に努めた。 ●除排雪作業 →除雪及び風雪状況に応じた除雪とパトロールを適宜実施し、冬期間の道路利用者の安全確保に努めた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A:実現した
 B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない
 E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	『施策を取り巻く状況』 <ul style="list-style-type: none"> 農業生産機械や輸送機械の大型化に伴い、安全な道路構造が求められている。 橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕が求められている。 『今後の予測』 <ul style="list-style-type: none"> 道路施設の経年劣化により、道路の補修量の増加が見込まれる。 同一規準での整備ではなく、各路線の役割に沿った規準で整備を進めることにより、整備延長を増加させる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> 道路(歩道)はすべての方が使いやすいユニバーサルデザインの考え方で整備を進めてほしい。 郊外の砂利道について舗装にしてほしい。 ICTを活用した効率的な道路交通環境の整備推進を検討してほしい。 コミュニティバスの運行ルートを見直してほしい。 高齢者の方々の免許返納に対する町の支援が必要である。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

●安全で安心な道路環境の整備(町道・歩道・駐車場等維持管理事業) 老朽化した橋りょうの修繕、交通安全施設や緑化、省エネ街灯などの環境対策、案内標識の整備、高齢者や障がい者など、多様な人々に配慮した道路環境整備を計画的に実施する。 冬期間における除排雪対策を含め、車道・歩道の適切な維持管理を行うため、拠点となる車両管理センターの移転改築を進める。
●交通弱者への交通手段の確保(地域公共交通確保対策事業) コミュニティバスの運行ルートは町内会に希望調査を実施し、運行そのものの総体的な見直しを進める。 農村部については、高齢者を対象に令和2年度からタクシー助成を開始した。今後については、MaaS(マース)の活用を含め、引き続き調査研究をする。

6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	成果指標は策定時より若干下がっているが、冬期間の除排雪を含め、道路パトロールを強化し損傷か所の早期発見による道路利用者の安全確保に努めており、策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	除排雪については、現状の経費の中で、住民サービスを向上させる方策を検討する必要がある。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価と同じく策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	MaaSの活用について、関係課と調整し進めもらいたい。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					